

志賀原子力発電所 2号機 高圧タービン車室内で発見された 粒状金属の流入源について

平成18年10月12日
北陸電力株式会社

当社は、志賀原子力発電所 2号機（改良型沸騰水型、定格電気出力 135万8千キロワット）において、点検中の高圧タービン車室内で発見された粒状金属（9月28日お知らせ済み）の流入源の調査を行ってきました。

その結果、高圧タービン車室内で発見した粒状金属は、その形状、金属成分および製造記録より、主蒸気止め弁^{*1}の製造時にショットブラスト^{*2}作業で使用したものであることが判明しました。

また、主蒸気止め弁を分解点検したところ、弁内部の旋回防止板^{*3}と弁箱の隙間に粒状金属が残留していることを確認しました。

これらのことから、主蒸気止め弁に残留していた粒状金属が、蒸気の流れに伴って高圧タービン車室内へ流入したものと特定しました。

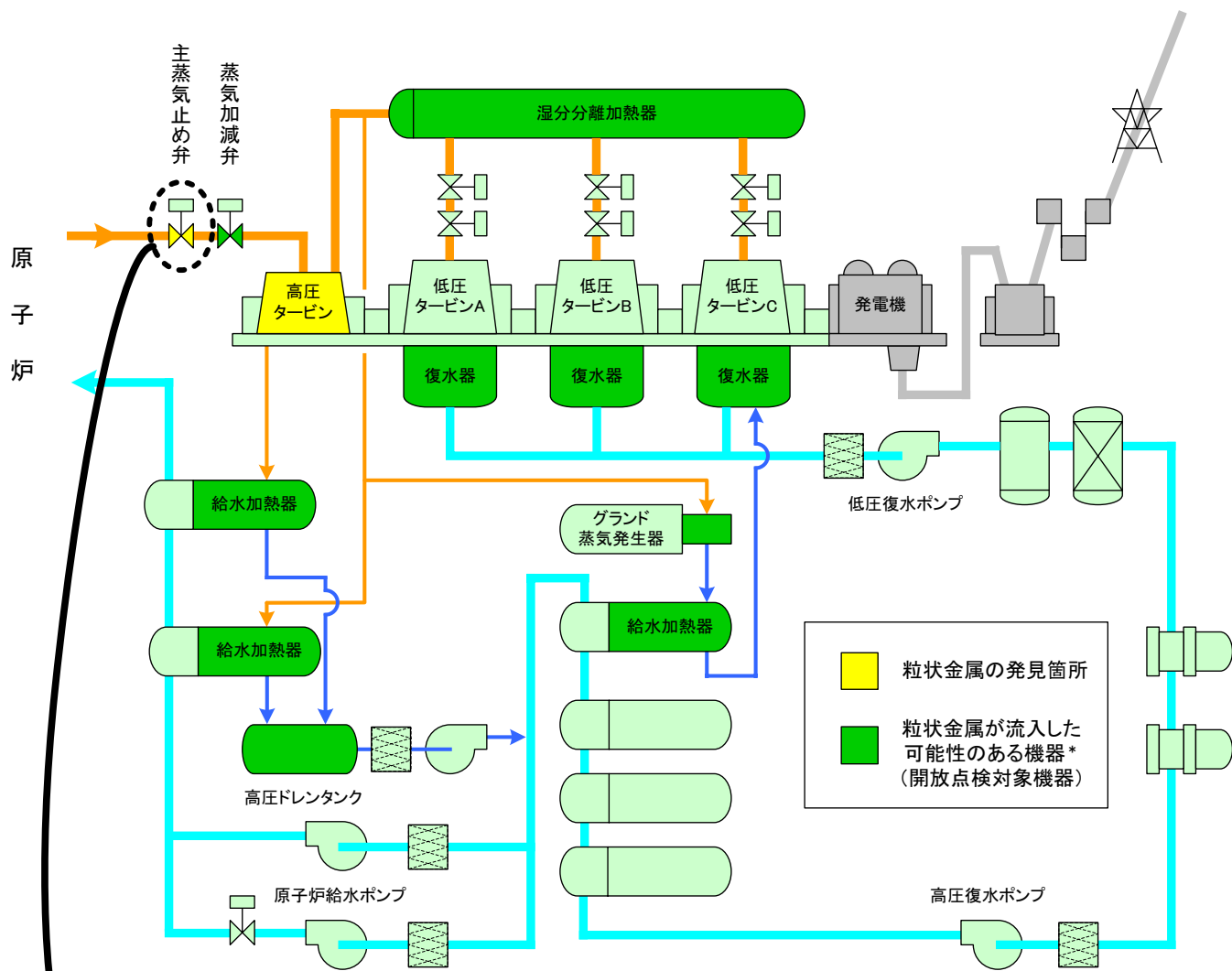
引き続き、主蒸気止め弁に残留していた粒状金属が流入した可能性のある機器について開放点検^{*4}し、確実に回収してまいります。

以上

- * 1 主蒸気止め弁 : タービンへ流入する蒸気を遮断する弁
- * 2 ショットブラスト : 多数の金属粒を高速で鑄造品等の表面に衝突させ、表面の酸化皮膜等をクリーニングする方法
- * 3 旋回防止板 : 主蒸気止め弁内部に蒸気の渦発生を防止する目的で設置された板
- * 4 開放点検 : 熱交換器等の点検用のマンホールを開けて内部の確認を行う点検

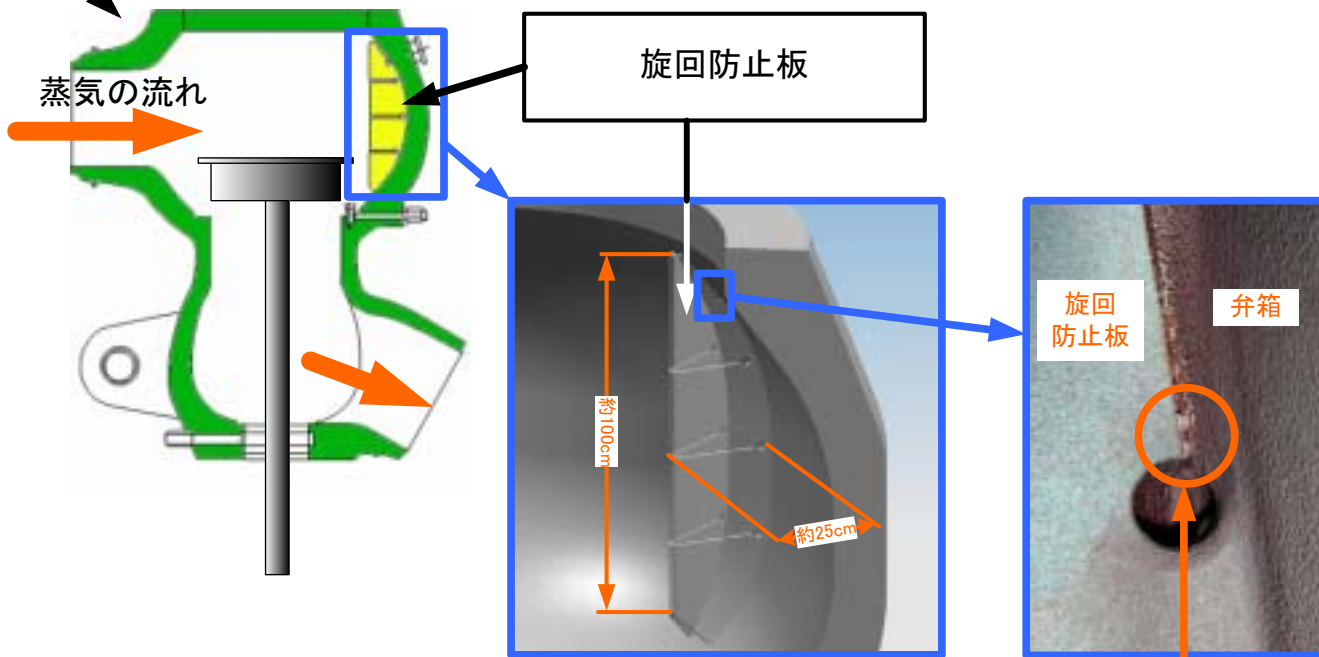
添付資料：粒状金属の発見箇所と流入した可能性のある機器

粒状金属の発見箇所と流入した可能性のある機器



* 点検結果により点検範囲を拡大
 フィルタ(試運転期間中に使用)

主蒸気止め弁
 (断面図)



主蒸気止め弁内部拡大図

確認された粒状金属